

# ほつかいどう NIE・通信

発行 北海道NIE推進協議会

昨春導入された「総合的な学習の時間」。これに伴うNIE推進は、実践者にとって「待ちに待った」時代の到来である。調べ学習でインターネット検索が華々しいが新聞の持つ魅力と役割が、今後も活用されるだろう。



# 学習の基礎 基本の定着めざして

旭川市立東陽中学校教諭

小林直樹

考える・調べる(②展開)  
表す・著す(③発展)と  
押さえた。コラム投稿や  
スクランプ収集、調べ・発  
表学習の方が一般的だが、  
私は今まで「読み込む」  
ことを取り立てて扱った

「今日の海外は、・・・・」  
を進めていた。毎日、日  
直となつた生徒は朝刊を  
必ず読んで来て、学級日

まさに「自ら意欲的に学び、考え、創造性豊かな生徒が育成されつつある」と思っている。

いと教師負担が増し学校は日々師走になる▼横並びで群れていればいいとの昔の殻を捨てて教師自分が変身する時代だ。教師が変わらなければ子どもも変わらない。(高)

昨春、導入された「総合的な学習の時間」。これに伴うNIE推進は、実践者にとって「待ちに待った」時代の到來である。調べ学習でインターネット検索が華々しいが、新聞の持つ魅力と役割は普偏的である。今、その「生きる力」のベースとなる基礎基本の定着に、あえて立ち戻る方法を選んで試みていい。期せずして、本校の研究主題は「意欲的に学び、

NIE実践の指導段階を①基礎基本→②展開→③発展ととらえ、それを読む（①基礎基本）、直結している部分とを考えた。

「読み込む」を、各学習で基礎基本とし、本年度から朝読本を始めた。8ヵ月が経った今、8時35分の東陽中学校は、静寂に包まれている。生徒の集中力は着実に向上了。

誌の記入欄に要約文を書くのである。新聞を購入していな家庭の子は、学校に配達される6紙から選び記述する。はじめのうち大半の生徒は、イラク戦争やS A R S関連の続報を取り上げたが、2巡もするとどう

検証である。前年度の反省を生かし4月には校長から新方針が出される。年度末に校内の各セクションでミニフェスとの検証を厳しく実施する。次年度は新たにミニフェスの具體化に向けて諸活動の細案を練る。▼交

NEDO実践校制度は、全国の新聞各社と日本新聞教育文化財団（本部・横浜）が協力して1996年度から進められている。年度面は全国の小中高校総

数の19%に当たる約40校を限度ワクとして認定する計画だが、本年度の認定校は389校とまだ11校足りず、04年度中の達成を目指している。

この中で道内は本年度  
都道府県別では最も多い  
32校が認定された。うち  
2校は同協議会が「独自  
ワーク」として認めたもの  
だ。実践校の指定期間は

春夏季校ごとを算出し、  
条件を勘案して、3月月下旬  
までに選び出す。正式には  
は5月に第1次、7月に  
第2次に分け実践校が決  
まる。実践校には一般日

海道NIE推進協議会（会長・小林甫北大教授）は本年度と同じ数の小、中、高校合わせて32校程度を選定する予定だが、希望校が多ければさらに増やすことも検討する。

## 32校程度を認定する計画

## 校のマニフェスト

月色工シピツ

校の活動教師数に応じて、6ヵ月（実践者6人以上）、4ヵ月（同3～5人）、2ヵ月（同1～2人）の3タイプがある。新規実践校の購読開始は原則として2学期以降。

実践校では新聞を「生きた教材」として活用してもらい、子供の時から新聞に接することで活字文化の素晴らしさになじみ、併せて「考える力」や「生きる力」を養つてもらう。総合的な学習の時間の導入などを背景に道内でもNIEへの関心が高まっており、同協議会は学校側の希望にできるだけ応えていく方針だ。

誌の記入欄に要約文を書くのである。新聞を購読していない家庭の子は、学校に配達される6紙から選び記述する。徒は、イラク戦争やSAR関連の統報を取り上げたが、2巡もするとだれも知らないようなトピックを選ぶ生徒も出てきた。日直の時に、しかもたつた5行だからこそ長続きしている。近ごろは日直でなくとも新聞を読む生徒や、自ら新聞をもとに調べ、自ら新聞をもとに現れた。まさに「自ら意欲的に学び、考え、創造性豊かな生徒が育成されつつある」と思っている。（東陽中は02、03年度N

今年は教師受難の一年だった。文科省の指示指令は相変わらずの朝令暮改。影響を受けた学校は毎日が師走のようなもので、校長は経営責任を問われ、教師は指導力不足などがあらためて問われた▼まんじゅうの流行語大賞は「毒まんじゅう」を食った公立学校は「学力面」で私立学校に抜かれた。管理職では労が多く戸惑いがちであった。教師はメディアを活用し学力向上を図ったが成果が薄い。「なんでもう」の連続▼学校評価は「マニフェスト」の検証である。前年度の反省を生かし4月には校長から新方針が出される。次年度末に校内の各セクションでマニフェストの検証を厳しく実施する。シヨンでマニフェストの活動の細案を練る。▼校長が出した「マニフェスト」が達成されない時は次年度は新たなマニフェストの具体化に向けて諸活動の細案を練る。▼校長が出した「マニフェスト」が達成されない時は経営失敗である。しかしながら、この失敗は許されない。そのためにPDS（計画・実践・評価）を厳しくしていよいよと絶えず繰り返していく。この「絶えず」という言葉が、昔の殻を捨てて教師自身が変身する時代だ。教師が変わらないければ子どもたちも変わらない。（高）

記事を探す力つく

本校では地歴・公民科として昨年度からNIE実践校に参加し、「新聞を読む力」をつけることを目標に実践を行なうこととなつた。

的に活用してもらうこととしたのである。

のしがいがあつたものである。切り抜きからは生徒の世界観が如実にうかがわれ、コメントをつけさせて返却する教師には大きな充実感が残った。新聞の切り抜きを集めて自家版新聞を作成、教室に掲示している担任もいる。

に集約し、小論文対策に活用している。

ただ、9間口の高校では組織的にNIEを行なうことが難しく、実践に積極的な教師の力に頼る部分が大きい。メディアリテラシーの醸成という目標を持てば、各紙の比較検討

本校では地歴・公民科として昨年度からNIE実践校に参加し、「新聞を読む力」をつけることを目標に実践を行うことになった。

きを行わせ、その内容を要約し、感想を提出させることができた。不幸にもこの2年間は世界的な大事件が続き、大変利用

札幌真栄高校教諭

荒川道久

社会科に欠かせぬ新聞

NIE実践奮闘記

私がNIE活動に初めて出会ったのは、ちょうど6年前になります。前任校の八雲町で、3年生の女子生徒が、担任の先生の勧めで書いた作文が「みらい君が北海道新聞『みらいの広場』に掲載されたのです。

車社会になつてはしない。』といふ願いが書かれていました。

毅法華村立毅法華中学校教諭

平沼

和彦

自分の父親が交通事故で亡くなつた体験をもとに、「スピードの出ない自動車を造つてほしい。そして、もう2度と私のように愛する家族を

は、授業の中で生徒に書いてもらった作文を「みらい君の広場」に投稿するようになりました。何度か作文が掲載されると、生徒の

本を読むのが上手な方で、本を読んだのが上手な方が多かったのですが、新聞に載った同級生の作文を読んで、私は感想を言ってくれたのはとてもうれしいことでした。

精士で作る役・被書者役  
販売店の店員役、メー  
カーの役、裁判官役な  
どに分かれ、それぞれの  
立場になつたつもりで演  
技・発表をしてもらいま

生徒の感想は「P.L.洋についてくわしく理解できた」、「今度からお店で商品を買う時は、前よりも注意する」など。さらには「新聞は、こういう一般の人（消費者）から他の問い合わせにも誠実に対応して答えてくれていね」と書いてくれた生徒もあり、新聞に対する認識が高まつた授業でした。



環境問題を語り合ふ 豊島教諭と生徒たち

## 「新聞は味のある脇役」

北海道NIE研究大会開催

「生きる力と自ら考える力を培う新聞教育」をテーマとした第8回北海道NIE研究大会兼第13回北海道新聞教育研究大  
会(北海道NIE推進協議会、北海道新聞教育研究会主催)が11月28日、札幌・西岡北中学校で開  
かれた。同中と札幌・西小の先生が、それぞれ公開授業を行ない、子供たちが元気に発言していく。  
道内各地の教師ら約60人が参加。公開授業では西岡北中の豊島義明教

が2年生の選択理科で「新聞から見た環境問題」と題し、日本産のトキが絶滅した記事をもとに生徒たちと自然保護について論じ合った。特に環境問題を自分自身の問題としてとらえ、その解決や軽減のために自分や家族にできることは何か、について活発な意見が出された。幌西小の齊藤拓也教諭は、6年生保健分野で「病気予防のための生活の仕方」と題し高橋尚子選手が先の東京国際マラソンで失速した記事を使い、日々の食生活について意見を交わした。

また、十勝管内豊頃町茂岩小の阿部英一教諭、札幌・もみじ台南中の大石橋計幸教諭、石狩市・石狩南高の田中崇志教諭の3人が実践発表を行った。3校はいずれも本年度NIE実践校。この中で田中教諭



## 札幌市立発寒中学校

# 新聞から「自然界」を学ぶ



中型魚類を捕食していることが気になつた」と話す。一方、佐藤政二君は「新規を使つた授業は楽しめました」と話す。教科書には載っていないことが豊富だから」と話す。松本百代さんと笛森大君からは「授業の時間がすごく短く感じられる。前回新聞から米カリ

この日同教論は生物同士のつながりのバランスが崩れる例として、16種類もの新聞から計25の記事を用意した。北は北海道新聞に掲載された国内でも有数の水鳥の飛来地ウトナイ湖（苫小牧市）の水位が下がり、湖を取り巻く湿地の乾燥化が進んでいるという記事。南は琉球新聞に掲載された伊平屋島沖、与那国島沖の海中などで、サンゴに原因不明の腫瘍が発生したという記事など。「教科書には載っていないタヒムリーな自然界や動物

のことを「新聞を通じて  
知ってほしい」（同教諭）  
といふ。  
資料のボリュームがあるので、生徒たちは見出しありで、自分たちの興味のひいたものを先に読み進め、ノートに書き込み進めていく。  
クラス仲間からクジラ博士と呼ばれるほど、クジラが好きだという梶山健太郎君は、現在は捕鯨の停止で保護され増殖したミンククジラに関するサンケイ新聞の記事に興味津々のよう。『小型魚類を食べるといわれるミ

教室の窓から見える三角山と円山の頂きが白くなりはじめた12月初め。札幌市西区にある発寒中学校（上野成裕校長、生徒数690人）を訪ねた。荒島晋教諭が担任する3年6組の新聞を活用した授業を見学するためだ。このクラスの学級目標は「Colors」—1人ひとりは別の色だが、全員（全色）そろわなければ3年6組の色は出ないという意味が込められている。荒島教諭と38人38色のNIE授業とは一。（北海道新聞NIEスタッフ・江本 麻貴）

## 「環境」への意識向上

(北海通新聞) 田不外、一之江本  
麻貴

「オルニア州の山火事の発生原因を探った。この広範囲な火災で起る新たな灾害も心配です」との感想もあつた。

# 学校と一緒に新聞づくり

釧路新聞社のNIE活動



由茶安別小由で「新聞ができるまで」を講義

を作ることにしました。授業では本紙や「わくわくNIE」を使い、新聞ができるまで、なぜ新聞が必要なのか、などを考えてもらい、日ごろの取材活動については同校を取材した過去の記事をもとに説明しました。次に「お知らせ記事」に挑戦し、新聞原稿のイロハについて実際にペンを動かしました。午後からは星が校長先生にインタビューし、その内容をノートに書き

込むことで、メモするとの大きさを知つてもらいました。同25日の授業では、「中チャンベツ新聞」の原稿を書きました。5人の生徒はトップ記事を山内先生が担任になったことに決め、寄せ記事には釧路根室地方でも最も早くできる同校スケート場の整備の苦労話をまとめました。

01年11月8日に同校で授業（総務局事業部副部長星匠）、同25日には授業で原稿書きを行いました。本来は生徒たちが見出しどとを考えて新聞をつくるのがベストですが、締め切りが迫っていたことなどから原稿や写真は生徒たちが用意してメールで本社に送り、それをもとに整理部で紙面

A photograph of a classroom scene. A teacher, wearing glasses and a dark jacket, stands at the front of the room, holding a newspaper and gesturing with their hands as if speaking. Behind them is a chalkboard. In the foreground, two students are seated at their desks, looking towards the teacher. The room has large windows on the left and shelves filled with books and papers on the right.

4、おわりに  
こうした流れができたのも、「わくわくNIE」があつたことにはかなりません。また、社内見学などで実際に記事を書いてもらうことは、新聞をより身近に感じてくれる方法だと確信しています。

（釧路新聞社取締役編集局長 伊藤 豊）

みんな楽しそうに作業していましたが、見出しの立て方には苦労したようでした。

か  
驚きのほうが大きかった  
ようです。反省点は、生徒たちが実際に新聞づく  
りをする現場を見ること  
ができるなかったことで、  
卒業するまでには実現し  
たいと考えていて  
**3、その後の取り組み**  
今年の8月には、川

# 心やさしい現代つ子

## 「みらい君の広場」を担当して

北海道新聞の朝刊に掲載している子供の投稿欄「みらい君の広場」の編集を担当して、間もなく2年になる。道内各地の小中高生から毎日のようく投稿と格闘するうちに、現代つ子気質が、おぼろげながら見えてきた。「自分に自信を持てず、ささいなことで傷つく、心優しい子供たち」。印象を一言でいうと、こんな若者像になる。

(北海道新聞NIE推進センター委員・阪井 宏)

週2回の「みらい君」は、日曜付を自由投稿欄、木曜付をテーマ投稿欄と決めている。月に一度のペースで変える

テーマを、何にするか。つまりお題選びが、毎月の頭痛のタネである。子供たちからの反応がいいか、悪いかは、このテー

日本新聞教育文化財団(本部・横浜)は04年度から「NIEアドバイザー」制度をス

アドバイザーの具體的な役割は教師・保護者らの各種会合でNIEの教育効果を最大化するため、実践経験豊

## NIEアドバイザーへ

日本新聞教育文化財団

るが、実践経験について①研修会参加2回以上②全国大会での発表経験あり③地域セミナーなど

人。地域の推進組織NIEは近く人選を進め、本解を得て推薦する



## 新聞閲覧習慣化を

### 旭川、釧路でセミナー

北海道NIE推進協議会が道内各地で巡回開催している「NIEセミナー」が11月15日に釧路市で、12月13日に旭川で開かれ、今年の日程を終えた。04年は帯広(2月7日)の予定を皮切りに従来未開催の都市でも予定している。釧路でのセミナーは昨年の福田貴志教諭ら5教諭が実践発表した。この

中で、最近の中、高校生の多くは新聞に「興味がない」「難しい」といった印象を持つおり、「新聞閲覧の習慣化を図るなど、新聞に親しませる基礎的なアプローチが大切」などの指摘があった。3回目の開催となった旭川では、新聞づくりに取り組む高校生らも参加。5教師が実践発表したII東5条小の松原博子教諭は、新聞を切り抜き、コメントをつけて発表させること成果を報告した。

日本新聞教育文化財団は、著作権法一部改正で、教室で新聞が使いやすくなつた。そこで先生方のNIEと著作権について学習する。プログラムは第1講「著作権法入門」(講師・作文雄内閣法制局参事官)、第2講「新聞活用における著作権Q&A」(同・杉野信雄朝日参

マの選定で見事に決まりますからだ。このコーナーを始めた昨年春、最初のテーマは「学校週5日制」だった。週5日制論議が激しく沸騰していた時期だけに、大反響は間違いなしと信じていた。ところが届いた投書は10数通。しかも、世論の声に引きずられたものが多かった。子供たち



NIEセンターに続々と届いた投書の束

## 1月に東京で著作権講座

ありません。

殺到。「命」は12月15日在250通余りで、まだ記録は伸びそうである。社会のありように関心を示す投稿者は、むしろ少數派。大部分の子供たちの興味は、自分とその周辺に向いている。しかも、友人や家族との違いに悩み、優しい人間でありたいと願い、自分の自分を変えたいと願い、自分の関心のありかを、多少はつかめるようになつたのかもしれない。最近のテーマ投稿のベスト5は「優しさって何だろう」(03年5、6月)、「私の大切な友」(02年6、7月)、「命って何だろう」(03年12月)、「私の好きな歌」(同11、12月)、「自分を変えたい」(同6、7月)の順である。「優しさ」には350通余りが届く投稿の山から、教られることは少なくない。

議を読んでいます。日販協は全国の新聞販売業者の組織(北海道新聞などは未加盟)で、小学校4年生以上から中、高校まですべての教室で新聞を常置するためのボランティア運動と銘打っています。NIEと同様、若い層の活字離れの広がりに対する強い危機感が最も背景にあるのは、いままでに東京都葛飾区の一部地域や宮崎県延岡市で実施されていますが、相当多額になる新聞の原価をどう負担するかなど問題があり、どれくら

## 編集後記

投書の内容も時代を映している。社会のありように関心を示す投稿者は、むしろ少數派。大部分の子供たちの興味は、自分とその周辺に向いている。しかも、友人や家族との違いに悩み、優しい人間でありたいと願い、自分の自分を変えたいと願い、自分の関心のありかを、多少はつかめるようになつたのかもしれない。最近のテーマ投稿のベ

先着順。申し込み・問い合わせは同財團NIE部(TEL045-661-2039)へ。2031、ファクス04661-2039)